

長野県における療養病床入院患者に関する調査結果の概要

医療推進課

1 調査の目的

療養病床の入院患者等の実態を把握するため、入院患者の病状、在宅復帰可能性、自宅介護力、在宅療養への移行時の課題等を調査する。

2 調査の対象・回収状況

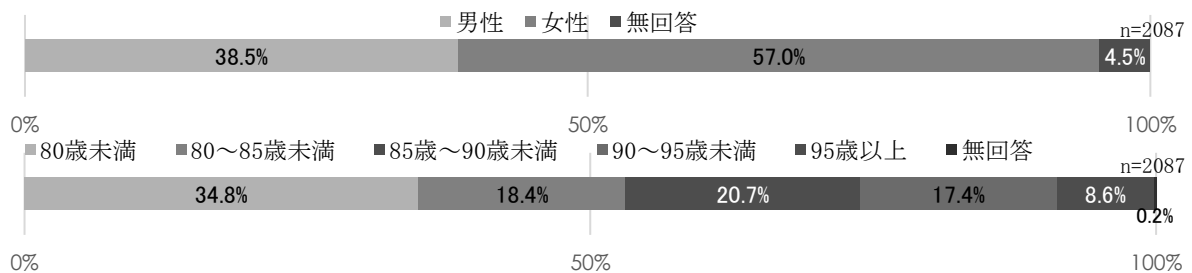
- 対象: 県内の医療機関に対する悉皆調査(自記式調査票の郵送配付・回収)
- 回収状況

	対象施設数	回収数	回収率	調査人数
療養病床を有する医療機関	74機関	46機関	62.1%	2087人

3 主な調査結果

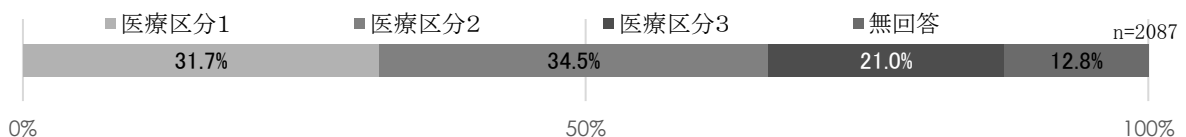
(1) 年齢・性別

入院患者の男女比はおよそ2:3であり、年齢は平均81.5歳であった。



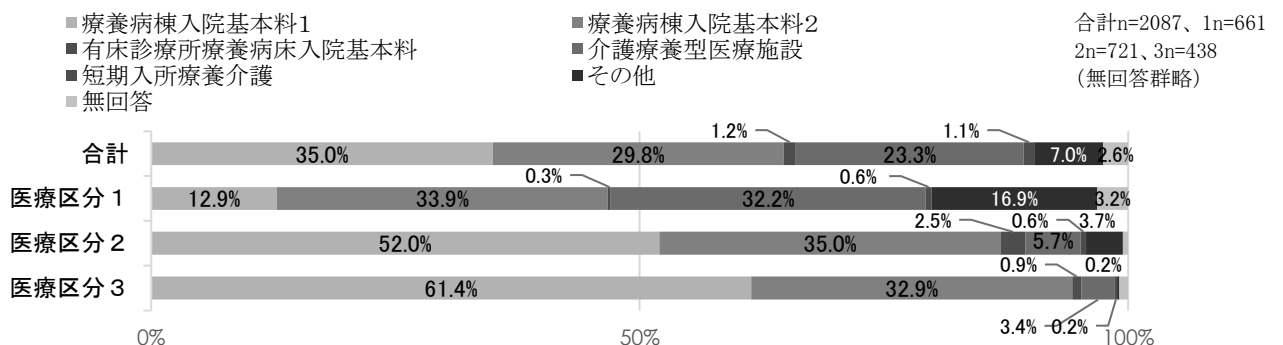
(2) 医療区分

医療区分は、「医療区分1」が31.7%、「医療区分2」が34.5%、「医療区分3」が21.0%であった。



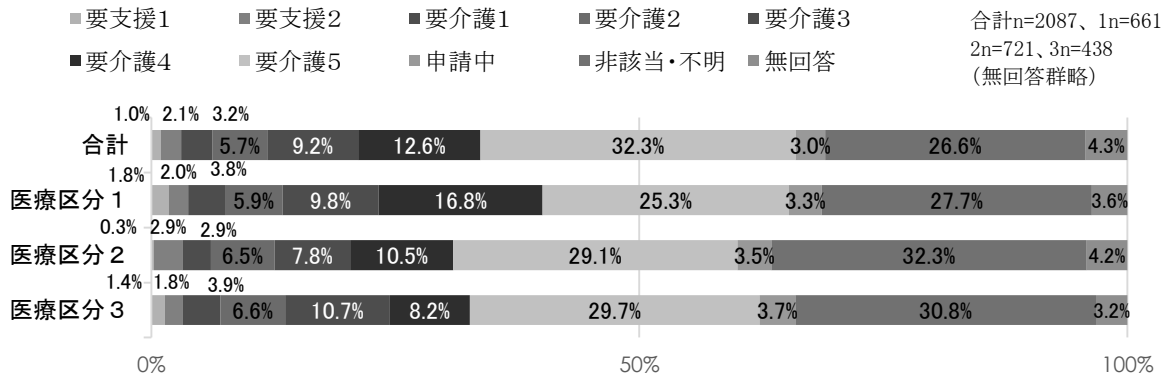
(3) 入院の形態

入院の形態についてみると、医療区分1の者では介護(介護療養型医療施設、短期入所療養介護)での入院の割合が3割を超え、医療区分2・3の者と比較して高かった。一方、医療区分2・3の者では、医療(療養病棟入院基本料1・2、有床診療所療養病床入院基本料)を算定している割合が9割程度となり、医療区分1の者に比べて高かった。



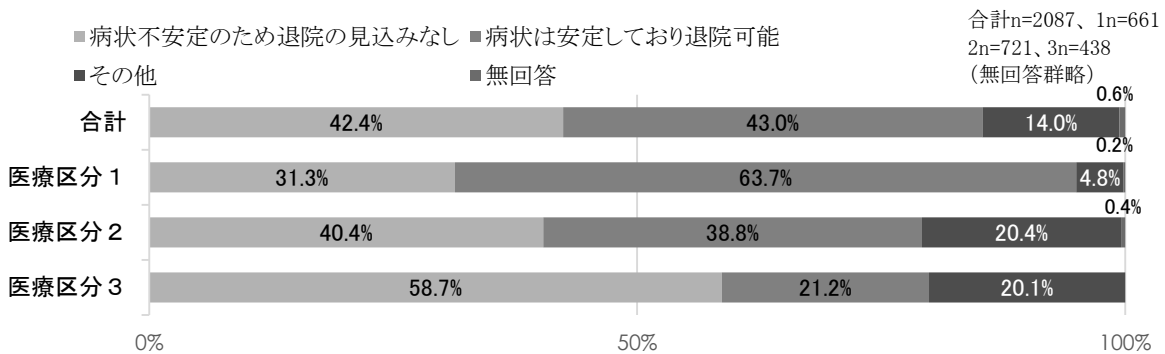
(4) 要介護度

要介護度は、非該当・不明を除くと医療区分1・2・3の者ともに「要介護5」が最も多かった。



(5)a 入院患者の退院の可能性

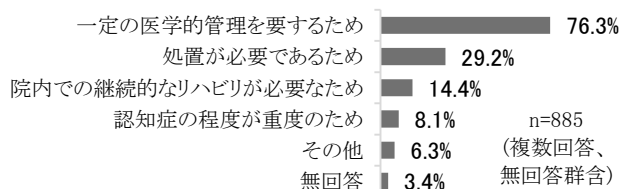
入院患者の退院の可能性についてみると、医療区分1の者については「病状は安定しており退院可能」が6割を超えていたが、医療区分2・3の者については「病状不安定のため退院の見込みなし」が多く、それぞれ40.4%、58.7%であった。



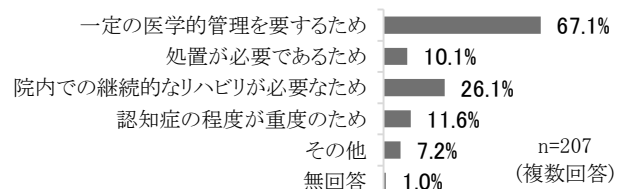
(5)b 病状不安定で退院の見込みなしと判断される理由

病状不安定で退院の見込みなしと判断された者について、その理由は、「一定の医学的管理を有するため」が多く、特に医療区分3の者では9割を超えていた。

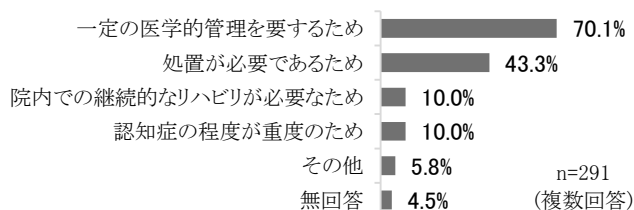
【合計】



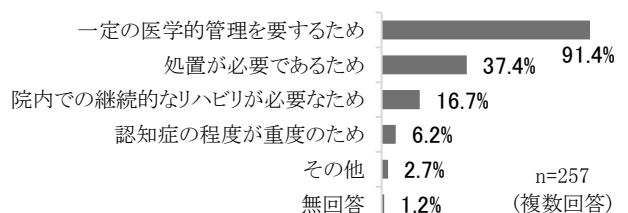
【医療区分1】



【医療区分2】



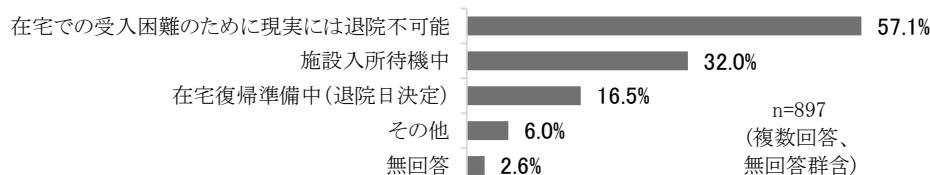
【医療区分3】



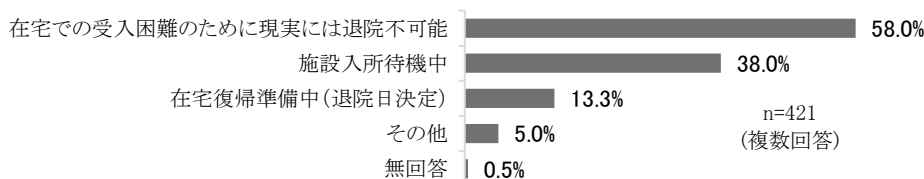
(5)c 退院可能な患者の状況

退院可能な患者の状況についてみると、医療区分にかかわらず「在宅での受け入れ困難のため現実には退院不可能」が多かったが、他の施設類型と比較して、医療区分1の者では「施設入所待機中」の割合が多く38.0%であった。

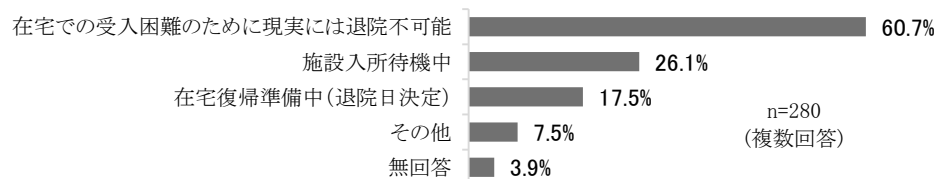
【合計】



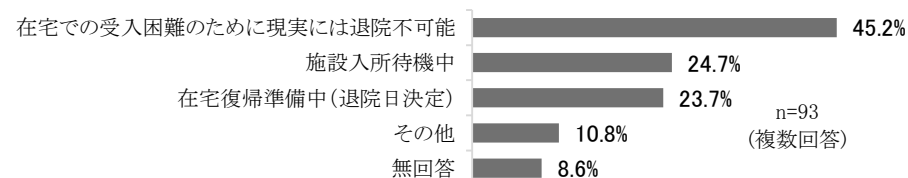
【医療区分1】



【医療区分2】



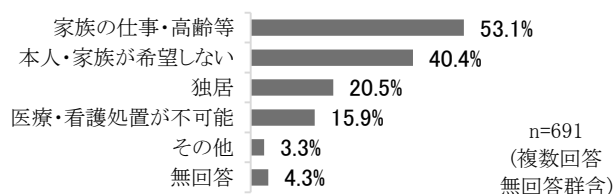
【医療区分3】



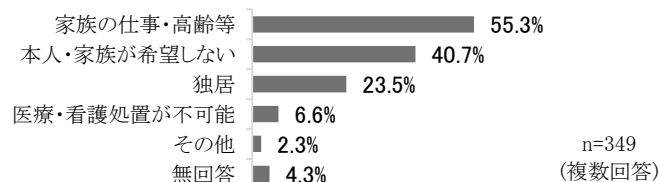
(5)d 在宅での受入が困難とされる理由

在宅での受け入れが困難とされる理由についてみると、医療区分に関わらず「家族の仕事・高齢等」が最も多く、次いで「本人や家族が在宅医療を希望しない」となっている。

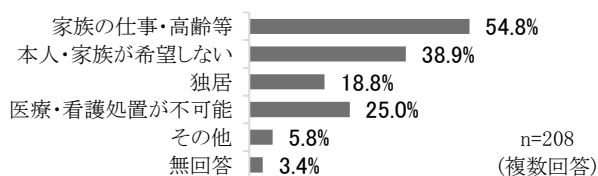
【合計】



【医療区分1】



【医療区分2】



【医療区分3】

